

一般社団法人 日本報道検証機構への通報①

月日	2016-04-29
見出	岡崎市議セクハラ 政倫委員会の開催検討も
部分	市議会には、市民などからの苦情や情報提供もあった
証拠	三浦議員が岡崎市議会議員に就任した平成 24 年 10 月 26 日から平成 28 年 4 月 28 日までの間に在職した、議長 2 名、副議長 4 名、及び補助機関である議会事務局の全職員 37 名に文書または電話により確認した。その結果、記事中で「被害女性」とされた横山議員本人からの相談はあったが、それ以外の「市民など」から寄せられた苦情や情報提供は無かった。
情報	記事には「市民などから苦情や情報提供もあった」とあるが、在籍した正副議長及び事務局職員の全員を対象に調査した結果、横山議員から相談を受けた以外の苦情や情報提供は無かった。 記事を掲載するにあたり、当事者である市議会又は議会事務局へ照会することも無く、取材を尽くさなかったため、誤った情報を発信した。

一般社団法人 日本報道検証機構への通報②

月日	2016-05-03
見出	セクハラ岡崎市議 一度は謝罪意向も
部分	三浦議員は女性に対し、いったんは謝罪する意向を示したものの、その後、拒んでいた。
証拠	◆謝罪を拒んでいたのは三浦議員ではなく、女性（横山議員）であった証拠 ①1 度目（横山議員が「止めておく」と、意思を表明） 3月31日 11 時 37 分、事務局職員が電話で横山議員に対し、三浦議員が謝罪の意向を持っていることを伝えたところ、横山議員はこれを一旦は承諾した。しかし同日 12 時 01 分に事務局職員が電話したところ、横山議員は「この日に行くっていうのは、ちょっと止めとく。」と、態度を保留した。 ②三浦議員が、文書での謝罪をしなかった経緯 4月4日に横山議員から事務局に対し、「謝罪の内容を文書にして渡してほしいと三浦議員に伝えてほしい」との申し出があったので、同日、三浦議員に横山議員の意思を伝えた。三浦議員は「文書にして謝るほどのことをした覚えはないが、気分を害したことを謝りたかったと伝えてほしい」と事務局に依頼した。 ③2 度目（横山議員が「（謝罪を受入れることは）できない」と、意思を表明） 4月5日 12 時 37 分、事務局職員が横山議員と面会したところ、三浦議員の謝罪意思をふまえ、4月8日の岡崎市議会4月臨時議会終了後に三浦議員の謝罪を受入れることになった。しかし、面会の2分後に事務局に電話があり、「謝ってもらうのは止めた方が良くてことで、ちょっと、できない」と、横山議員から意思の表明があった。
情報	記事には「三浦議員は女性に対し、いったんは謝罪する意向を示したものの、その後、拒んでいた。」とあるが、三浦議員は謝罪の内容を文書にすることは拒んだものの口頭での謝罪意思は示し続けていた。拒んでいたのは横山議員の側であったことは、両者の仲介をした議会事務局に取材すれば確認できた筈であるが、必要な取材を怠ったため、事実と正反対の報道となった。

一般社団法人 日本報道検証機構への通報③

月日	2016-05-24
見出	被害女性は同僚議員
部分	①セクハラ行為は公然化していた。 ②女性は「女性蔑視を許す岡崎市議会の体質を改めてほしい」と話している
証拠	①全議員（男性 30 名、女性 5 名、計 35 名）を対象にアンケートを実施した結果、議員間でセクシャルハラスメントを受けたことがあるのは女性 1 人、議員間でのセクシャルハラスメントを受けているのを見かけたり、聞いたりしたことがあるのは男性 2 人、女性 1 人の計 3 人であった。 ②横山議員を含めた 5 名の女性議員に対し「市議会の中で女性蔑視を感じたことがあるか」を尋ねたところ、「ある」と回答したのは 1 人であった。他の 4 名の議員は女性蔑視を感じておらず、「女性蔑視を許す岡崎市議会の体質」という表現は当てはまらないことが明確になった。 ※6月6日に全議員を対象に「セクシャルハラスメントについてのアンケート」を実施し、6月7日の記者会見でその集計結果を発表したところ、読売新聞、東海愛知新聞では取り上げられたが、中日新聞にはアンケートについての記載は無かった。
情報	①「セクハラ行為は公然化していた。」と断定的に記載されたが、中日新聞に対する訂正依頼（資料 1）で指摘したにもかかわらず、口頭報告、文書回答（資料 2）においてもその根拠は示されず、事実に基づいた報道をしたとはいえない。 この記事をもとに、全国フェミニスト議員連盟が「セハラ行為は公然化」してきたとする報道をもとに抗議文を寄せることとなり、岡崎市は全国組織から社会的制裁を受けることとなり、その名誉は大きく失墜した。 ②他の女性市議に確認すれば女性蔑視を感じていないことが容易に確認できたにもかかわらず、裏付けとなる取材を怠った。そのうえで、横山議員の個人的な発言を、あたかも岡崎市議会全体の意見として取り上げ、「女性蔑視を許す岡崎市議会の体質」と断定しており、事実を報道したとはいえない。 ※何らの裏付け取材もなく「セクハラ行為は公然化」「女性蔑視を許す岡崎市議会の体質」という断定的な記事を記載したが、自社に不利となると判断したのか、全議員対象アンケートにより明らかになった客観的な事実を報道していない。

一般社団法人 日本報道検証機構への通報④

月日	2016-05-24
見出	議長「個人の問題」市議会とは追及せず
部分	①蜂須賀喜久好議長は23日、市役所で記者会見を開き、「議会としてこれ以上、判断のしようがない」と述べ、セクハラ行為の確認や責任追及を断念した。 ②「(セクハラ問題は)議会事務局が対応すべきことではないので、持ち込まないでほしい。今後は事務局に相談しないように」と女性を口頭で注意した
証拠	①23日に開催した記者会見で、議会の現状と今後の方針について議長は次の通りの説明をしており、セクハラ行為の確認や責任追及を断念するという発言は一切していない。 ・「現状としては議会としてこれ以上は結論からですよ、まず結論といたしましてはなかなか難しい」 ・「現段階では何の真実も新たなものは出てこない、判断のしようがない」 ・「議会としては新たな対応をする、例えば司法の場にこの件が移ったという場合にその結果を見てまた議会として対応すべきではないか」 ・「議会としてはずっと注視していく」 ②横山議員と会談した結果については記者会見では言及していないため、会談に立ち会った当事者(議長、副議長、横山議員)の何れかに取材したものと考えられる。 記事には「(セクハラ問題は)議会事務局が対応すべきことではないので、持ち込まないでほしい。今後は事務局に相談しないように」とあるが、実際は「我々の職務ですから、我々には良いんです。議会事務局に対して、こういったことは慎んでもらいたい」と発言したのが事実である。その一部を切り取って報道したため、読者に誤解を与える表現の報道となった。
情報	①記者会見において議長が、事態を注視して対応すると説明しているにもかかわらず、その説明を取り上げることなく「断念した」と掲載しており、事実に基づいた記載をしていない。 ②議員同士の問題は、事務局ではなく正副議長に相談するように横山議員に要請している。この報道を読む限り、議会事務局に相談することを一方的に制止したようにしか読み取れないため、読者が事実誤認をすることとなった。

一般社団法人 日本報道検証機構への通報⑤

月日	2016-05-24
見出	議長「個人の問題」市議会は追及せず
部分	23日、市役所で記者会見を開き、「議会としてこれ以上、判断のしようがない」と述べ、セクハラ行為の確認や責任追及を断念した。蜂須賀議長は「(議会が) 深入りすべきではない。個人の問題だ」と話した。
証拠	23日に開催した記者会見の記録を検証したところ、議長が「深入りすべきでない。個人の問題だ。」と話したことは確認できなかった。 なお、中日新聞の帯田記者は「個人的な問題だからセクハラの有無を判断しないのか」という趣旨の誘導的な質問を繰り返したが、以下に掲げるように、議長はその都度否定している。 ①中日：個人的な問題だからということですか。 議長：そう、個人的な問題というよりも中身が中身ですからね。 ②中日：個人の話だから、問題だから。 議長：違います、違います、そうじゃなくて。 ③中日：だって、分かんないということに関しては、個人的な領域だからとこれ以上は立ち入れないということに関しては一緒だと思うんですね。 議長：議会としては各派代表者の皆さん方もこれで終わりだなんて、一言もおっしゃってみえないんですよ。 また、「個人の問題」という記載をもとに、全国フェミニスト議員連盟をはじめ4団体が抗議文を寄せることになり、その内容を6月21日付中日新聞が報ずることにより、岡崎市は重ねて社会的制裁を受けることとなり、その名誉は大きく失墜した。
情報	記事には「蜂須賀議長は「(議会が) 深入りすべきではない。個人の問題だ」と話した。」とあるが、23日に開催した記者会見の内容を確認したところ、議長はそのような発言をしていない。中日新聞の帯田記者が「個人の問題だからか」と、誘導的な質問を執拗に繰り返したが、議長はその都度、これを否定。さらに、今後も事態を注視していくことを説明している。 にもかかわらず、あたかも議長が「個人の問題」として介入を避けたような記述になっており、取材で得られた情報を意図的に歪曲して読者に伝えている。

	抗議文からも読み取れるように、議長が「個人の問題」として介入を避けたと読者が捉えていることは明らかで、事実と異なる認識が全国組織にも広がり、岡崎市議会には拭いがたい汚名を着せられることとなった。
--	--

一般社団法人 日本報道検証機構への通報⑥

月日	2016-05-28
見出	セクハラ 別議員からも
部分	蜂須賀喜久好議長は各派の代表者会議を開くなどいったんは対応に乗り出したものの、23日の会見で責任追及を断念したと発表。
証拠	23日に開催した記者会見の発言を精査したが、議長が「責任追及を断念したと発表」した事実はない。 実際は、議長が議会の姿勢として以下のように記者に説明している。 ・「現段階では何の真実も新たなものは出てこない、判断のしようがない」 ・「議会としては新たな対応をする、例えば司法の場にこの件が移ったという場合にその結果を見てまた議会として対応すべきではないか」 ・「議会としてはずっと注視していく」
情報	議長の記者会見における説明を無視して「責任追及を断念したと発表」と記載しており、事実と異なる内容を記載した。

一般社団法人 日本報道検証機構への通報⑦

月日	2016-06-02
見出	全国フェミスト議員連盟 岡崎市議会に抗議文
部分	蜂須賀議長は女性の訴えや本紙報道を受け、各会派の代表者会議を開くなどいったんは対応に乗り出したものの、5月23日、解決に向けた行動をやめた。
証拠	23日に開催した記者会見の内容を精査したが、「解決に向けた行動をやめた」旨の発表はしていない。 実際は、議長が議会の姿勢として以下のように記者に説明している。 ・「現段階では何の真実も新たなものは出てこないと、判断のしようがない」 ・「議会としては新たな対応をする、例えば司法の場にこの件が移ったという場合にその結果を見てまた議会として対応すべきではないか」 ・「議会としてはずっと注視していく」
情報	議長の記者会見における説明を無視して「解決に向けた行動をやめた。」と記載しており、読者に誤解を与えた。 市議会が市民等への情報提供のため、(5月23日までに)4回にわたり積極的に記者会見を開催しているにもかかわらず、それを無視し、事実と異なる情報を発信し続けている。これは、国民の「知る権利」を不当に損なう行為だと考える。

一般社団法人 日本報道検証機構への通報⑧

月日	2016-06-03
見出	岡崎市議会セクハラ問題 7日政治倫理委招集
部分	蜂須賀議長は本紙の報道を受け、セクハラ問題の解決に乗り出したが、5月23日、対応をやめると発表した。
証拠	23日に開催した記者会見において議長は「議会としては新たな対応をする、例えば司法の場にこの件が移ったという場合にその結果を見てまた議会として対応すべき」「議会としてはずっと注視していく」と発言しており、「対応をやめると発表した」という記述は全くあてはまらない。 なお、記事の見出しにも掲げられている通り、5月30日に三浦議員が、5月31日に田口議員が記者会見で、中日新聞に対し損害賠償請求訴訟を提起する旨を表明したことを受け、無所属議員を含む複数会派からなる8名の議員の連名により政治倫理委員会開催請求書が提出され、市議会は速やかに政治倫理委員会の開催を決定している。
情報	議長の記者会見における説明を無視して「対応をやめると発表した」と事実と異なる記述を続けている。5月23日の記者会見を歪曲した報道を4回にわたり繰り返すことで、意図的に、議長が対応をやめたという誤った認識を読者に定着させた。 実際は、5月23日の記者発表で説明した通り、岡崎市議会は関係者の動向を注視し、司法の場に移る可能性を察知し、会派の壁を越えて速やかに行動を起こしており、「対応をやめる」という報道は事実と明らかに異なっている。 事実と異なる記述をした結果、一方では「政治倫理委員会（委員長・蜂須賀議長）を7日に招集することを決めた。」、また一方では「対応をやめると発表した」という相反する記事を記載することになり、矛盾したものとなっていることも指摘しておきたい。

一般社団法人 日本報道検証機構への通報⑨

月日	2016-06-04
見出	「二度と起きない対策を」 岡崎市議会セクハラ問題 被害議員が会見
部分	横山議員は今年3月、三浦議員について改めて議会事務局に相談。蜂須賀喜久好議長は5月23日、「セクハラ問題を議会事務局に持ち込むな」と横山議員に注意した。
証拠	横山議員と会談した結果については記者会見では言及していないため、会談に立ち会った当事者（議長、副議長、横山議員）の何れかに取材したものと考えられる。 記事には「（セクハラ問題は）議会事務局が対応すべきことではないので、持ち込まないでほしい。今後は事務局に相談しないように」とあるが、実際は「我々の職務ですから、我々には良いんです。議会事務局に対して、こういったことは慎んでもらいたい」と発言したのが事実である。その一部を切り取って報道したため、読者に誤解を与える表現の報道となった。
情報	議員同士の問題は、事務局ではなく正副議長に相談するように横山議員に要請したにもかかわらず、あたかも議会事務局に相談すること正当であり、議長がそれを制止したかのような記事を掲載したため、読者に誤解を与えた。